

習志野市立図書館 児童向け資料の選定に関する基準

第1条 目的

習志野市立図書館資料の収集・保存に関する方針に基づき、児童向け資料の選定基準を定める。

第2条 選定の範囲

資料は原則として児童を対象に出版された本を対象に選定する。しかし、一般向けに出版されていても、子どもが関心を持ち理解することができる資料は児童向け資料として蔵書に加えることができる。

第3条 選定の基本

資料の選定にあたっては次の各号に留意する。

1. 資料は、その資料自体の価値だけではなく、他の代替本、類似書がないか等、蔵書全体との関係において評価し選定する。
2. 受け入れた資料については、収集時のみに評価を行うのではなく、その後の子どもの利用状況や子どもたちの評価を見ながら、継続的に評価していく。
3. 評価の高い資料は、常に書架にあるよう複本で揃える。複本を何冊とするかは、子どもの要求、図書費・スペースや他の資料との関わりあい等を勘案し決定する。特に楽しみのための本や子どもたちが興味を持つ分野や主題の資料は、複本を増やすように留意する。
4. 蔵書の核となる基本図書を買替えようとする場合は、その資料のより良い版か、又は絶版となっていないかを確認してから行う。
5. 基本図書の周辺に位置づけられる本の買替えは慎重に行う。子どもの反応を見ようという観点から購入したものや、ノンフィクションの分野で類似資料がないという観点から購入したものなどは、利用状況や同じ主題でより良い新しい本がないかなどを確認して買替えを行う。
6. 子どもだけでなく、わらべ歌、民話、伝承遊びなど、保護者、教師、保育者から求めの多い分野についても、幅広く選定する。
7. 製本・装丁及び印刷がしっかりしているかも評価の対象とする。

第4条 対象別資料選定基準

1. 乳児期と幼児期

絵本を中心に収集するが、読み物も収集する。

① (0～3才)

親子の温かみを通して言葉を覚えるようになり、人と人との触れ合いを楽しみながら言葉への興味を持つようになるので、子守唄、わらべ歌、初期の認識絵本等を選定する。また、年齢が上がるに伴い親子関係から兄弟友達との横の繋がりがりもでてくるので、簡潔な言葉で書かれた物語絵本も選定する。

② (4～6歳)

以前より活動的になり、行動力や社会性がついてくるため、より複雑な物語絵本、やさしい読み物を選定する。また、自然現象に興味や好奇心を持ち、ごく自然に科学の本を楽しめる素地を持っている時期であるので、知る喜びや関心を育むために幼児向け科学の絵本も選定する。

2. 小学生

① (1～3年)

絵本から読み物へと移行し、文字をたどり読みする時期で、大人に読んでもらう必要がある子と、一人で読めるようになる子がおり、大きい活字で挿絵も入った読みやすく楽しい質の高い資料を複本で揃える。また、行動範囲が広がるにつれ、興味関心を持つ分野も広がり深まりを見せるので、やさしい知識の本も選定する。

② (4～6年)

読書の楽しみが理解できるようになる時期であり、自分でどんどん読みだす子と、読まない子が分かれてくる。しっかりとした物語を読み始める子どもたちのために、基本となる資料を選定し複本で揃える。

また、物事を深く考え理解できるようになり、特定分野に対する関心が深くなる時期であるので、文学は、本格的な楽しさを味わえる定評ある長編やシリーズものを選定し、知識の本については、詳しい説明や図解があるものを収集する。必要に応じてわかりやすい一般向け資料からも選定する。

3. 障がい児

障がいの程度が異なる子どものために、それぞれに適した資料を選定する。(録音図書、点字本、さわる絵本、大活字本等)

第5条 分類別資料選定基準

1. 絵本

絵本は子どもが長い読書生活をするための重要な時期に出会う最初の本であり、利用も多い。そのため、質量ともに十分に揃えることが必要であり、次の項に留意して選定する。

- ・ 絵が、見る子どもに訴えかけるものを選定する。
- ・ 文に、子どもにふさわしい言葉が使われ、読んでもらったときに心地よく感じるリズムと、ストーリー性があるものを選定する。
- ・ 絵と文が一体化されており、ストーリーが子どもにふさわしいものを選定する。
- ・ 絵の構図がしっかりし、色使いも子どもの年齢にふさわしいものを選定する。
- ・ 子どものために出版されているものから選定する。

2. 昔話、伝説、神話

昔話は、子どもの文学の原点として位置づけ、次の項に留意して選定する。

- ・ 昔話は、定評ある再話者が編集しているものを選定する。読み手の発達段階を考慮

しながら多くの種類を収集する。

- ・ 昔話の持っている内容(主題、筋運び、人物像)と形式(語り口、ことば)を正しく捉えており、優れた原話の再話であるものを選定する。
 - ・ 各国、各地方の資料を幅広く選定する。
 - ・ 伝説・神話は出版量が少ないので留意して選定する。
3. 0類(総記)
- ・ 百科事典、年鑑類は、最新の正確な知識に基づいて編集されており、かつ、児童にとって使いやすいものを選定する。
4. 1類(哲学)
- ・ 正しく豊かな人生観、世界観、宗教観が、養われるような内容で児童が理解しやすいものを選定する。内容が偏向的なものや、特定の宗教に偏ったものは、選定しない。
5. 2類(歴史)
- ① (歴史)
- ・ 歴史については、歴史観の相違による記述の仕方により、児童の理解が異なることがあるため、一つの主題について、異なる著者や出版社の資料を選定する。
 - ・ 日本史の通史は、正確で信頼性の高い資料を選定する。
 - ・ 戦争については、科学的、実証的に書かれている資料を選定する。
 - ・ 考古学、遺跡に関する資料も収集する。
- ② (伝記)
- ・ 物語性を重視し、被伝者の行動や業績を通して性格や生き方を伝えるものを選定する。
 - ・ 伝記は歴史研究でもあるので、時代背景が理解できる中高学年の読者を対象にした資料を選定する。
 - ・ 幼年伝記は、偉人伝ではなく、事実を正確に伝え叙述している資料を選定する。
 - ・ 人名事典、人物事典も収集する。
- ③ (地理)
- ・ 国内及び世界各地の自然、暮らし、産業についての資料を収集する。
 - ・ 首都圏及び千葉県に関する資料は積極的に収集する。
 - ・ 修学旅行や社会見学に役立つ資料は、利用時期が重なるためできる限り複本で揃える。
 - ・ 地図に関する本、地図帳も収集する。
6. 3類(社会科学)
- ・ 社会のしくみ、人間関係、民族、職業についての分野は、正確な知識や情報が盛り込まれている資料を選定する。
 - ・ 日本及び世界の暮らし、年中行事、祭礼、食物や服装の歴史などは、社会科の調べ

学習の資料としての利用も考慮して選定する。

7. 4類(自然科学)

- ・ 自然界の様々な現象を対象にし、天文学、物理学、化学、地学、生物学、医学の分野までを選定する。
- ・ 環境の変化や環境保護の重要性を示す資料を選定する。
- ・ 自然に対する興味や関心を深め、自然へ誘う資料を選定する。
- ・ 旺盛な知識欲に応えられるよう、多様なテーマの本を選定する。
- ・ 発達段階に応じた科学絵本や資料を選定する。
- ・ 科学技術の進歩に合わせ、新しい情報を扱った資料を選定する。
- ・ 体の変化への関心に応えるため、科学的に人体について記述された資料を選定する。特に、性と生殖、誕生については、科学的で簡潔かつ人間の尊厳を守るよう書かれた資料を選定する。
- ・ 障がいをもつ人への理解を深める資料を収集する。

8. 5類(技術)

- ・ 最新のデータや、情報に基づき、正確に書かれた資料を選定する。
- ・ 技術書のほか社会的、歴史的観点から論じた資料を選定する。
- ・ エネルギー、自然保護、環境問題の分野は、様々なレベルの資料を幅広く選定する。
- ・ 子どもに人気のある乗り物の分野は、十分に種類を揃える。
- ・ 家庭科の学習に役立つ資料を広く選定する。

9. 6類(産業)

- ・ 各産業について基本的な知識が得られる資料を広く選定する。
- ・ ペットの飼い方等の分野は、実用性の高い資料を選定する。
- ・ 交通、運輸、通信の分野は、最新の技術やデータに基づく資料を選定する。

10. 7類(芸術)

- ・ 芸術については、基礎的な鑑賞入門及び実技指導書を中心に選定する。
- ・ 各種伝統工芸の本は調べ学習での利用が多いことを踏まえ、様々な分野の資料を選定する。
- ・ 工作の本は、子どもに身近な様々な素材について幅広く収集する。
- ・ レクリエーション、娯楽については、流行に留意して選定する。
- ・ スポーツについては、各種スポーツの歴史、ルール、練習法の資料を選定する。

11. 8類(言語)

- ・ ことばの大切さを知り、国語に対する興味を喚起させる資料を選定する。
- ・ 漢字、作文、方言などの資料も選定する。
- ・ ことば遊びの本など、楽しみの要素の強い資料も選定する。
- ・ 辞典は、国語、漢字、英語の学習に役立つものを数種類揃える。

- ・ 子ども向きの外国語入門書も選定する。

12. 9類(文学)

- ・ どの年齢の子どもにも応えられる作品を選定する。
- ・ 古典から現代の作品まで幅広く選定する。
- ・ 古典、伝説は、文学として一定の評価をされ、現在まで子どもに読み継がれ、かつ現代的意味を有する作品を選定する。
- ・ 健康で明るく人生を肯定し、人間を信頼するヒューマニズムに裏づけられた作品を選定する。
- ・ 読書に不慣れな子に向けて、やさしく読みやすい作品も選定する。
- ・ 読み物は、シリーズをまとめ買いするのではなく、作品ずつ選定する。
- ・ 古典のダイジェストは、原作に忠実であり、文学的基準を備えた作品を選定する。
- ・ 文学史、詩歌、戯曲、随筆、ルポルタージュも収集する。

13. 郷土資料

- ・ 習志野市を理解し、ふるさと意識を高めるのに役立つ歴史、自然、環境、産業等に関する資料を網羅的に収集する。併せて、京葉地区、千葉県全体についての資料も収集する。
- ・ 一般向け資料でも子どもが利用できる資料は収集する。
- ・ パンフレット、リーフレット類、地図なども収集する。

14. 翻訳図書

- ・ 原文の意味を正確に伝え、また、原著についての解説がついている資料を選定する。

15. 外国語資料

- ・ 日本語を母語としない子どものために、外国語で書かれた絵本、図鑑や物語等を収集する。

16. 学習漫画

- ・ 学習漫画は、手に取りやすいことによる児童への影響の大きさを鑑み、主題に対する記述が正確であり、表現が適正な資料を選定する。

附 則

この基準は、平成5年4月1日から施行する。

附 則

この基準は、令和元年9月1日から施行する。